

地名や石碑に残る地域の記憶



甲州街道イチョウ並木

地名や石碑には

どんな思いが刻まれている？

長い間同じ土地に住んでいると、人は地名に愛着を感じるようになり、また、路傍に残された石碑には、その場所の歴史を語り継ごうとした人々の思いが刻まれています。そこには、どのような思いや記憶がこめられているのでしょうか。各地域に残る地名や石碑の由来を紐解いてみましょう。

「八王子」という地名の由来は、延喜16年(916年)に妙行という僧が現在の元八王子町にある深沢山の麓に庵を建て、牛頭天王と8人の王子を祀り、八王子権現と称したという伝説に基づくといわれています。

八王子の「横山」「由井」「川口」といった地名は、古代から現在に至るまで使われ続けている地名です。千人頭や八王子千人同心の組頭の拝領屋敷があったことから地名になった「千人町」、大久保長安の屋敷裏門前にあった宿を「御門宿」または「於門宿」と呼んでいたことから転じた「小門町」、かつて、高台にあるのに湧き水が出て「高所水」と呼ばれていたことから転じた「御所水」など、そこに住んだ人や特徴的な地形にちなむ地名も多くあり、地域の歴史をしるすことができます。

また、道端に建つ石碑や道標、橋の名称にも、その土地の歴史が刻まれています。それぞれの地名や石碑の由来を紐解くと、思わぬ発見があるかもしれません。



かつて千人頭が住んでいたまち 千人町の標識



甲州街道と陣馬街道の分岐点 追分の道標

案内（南浅川町）

この地域を通して東西を往来する人々を道案内する人が住んでいたという説や、高尾山へ道案内する人が住んでいたという言い伝えがあります。

八王子

八王子という現在の市名の起源は、八王子城跡にある八王子神社に由来しています。



とどろまち 廿里町

鎌倉から20里の距離にあったから付けられたとの説がありますが、定かではありません。

たてまち 館町

平安時代に鎌倉権五郎景正（景政）の館があったからとも、戦国時代の近藤出羽守の館があったからとも伝えられています。

並木町

昭和4年（1929年）に植えられた甲州街道のイチョウ並木にちなむといわれています。



おおふね 大船

沼地に船橋を作って通ったことに由来するといわれています。



ごしよみず 御所水（台町）

かつて、高台にあるのに湧水が出たことから、高所水と呼ばれていました。それが転じて御所水となったといわれています。



鍵水

多摩丘陵の斜面に槍のように尖らせた竹筒を打ち込んで飲料水を得ていたといわれます。この方法を「ヤリミズ」と言い、地名の由来になったといわれています。



北野

横山党の一族が京都の北野天満宮を当地に勧請し、北野の地名となったといわれています。



※ここで紹介した由来以外にも他の説があります。

ヒルクボ (上恩方町)

「行くだけで昼になる」という意味で、桑摘みに行くだけで一日仕事だったそうです。



いぢぶかた にぶかた 壹分方と貳分方

鎌倉幕府御家人の天野景広と弟頭茂が父景茂の遺領である由井本郷を巡り相論を起こしました。その結果、弟が兄に「由井本郷の三分の一」を譲ることで解決したそうです。兄は「壹分方」が譲られ、弟は「貳分方」を相続しました。このことが現在の「上壹分方町」「貳分方町」のルーツです。

どうどめき (小津町)

谷川の水が激しく落ちている場所、轟くような水音から転じてどうどめきになったといわれています。



まごめ 馬込・松木 (美山町)

かつて鎌倉古道が通っていたことから馬の込場があり、松木は馬次が転じたものといわれています。



もちかごり 持籠入 (上川町)

馬を降りて荷物を担いでいったことから名付けられたといわれています。



千人町

千人頭や八王子千人同心の組頭の拝領屋敷があったことから町名となりました。



とどろき 留所 (加住町)

谷地川にヤナをかけて魚を獲る場があったことからこの名がついたといわれています。

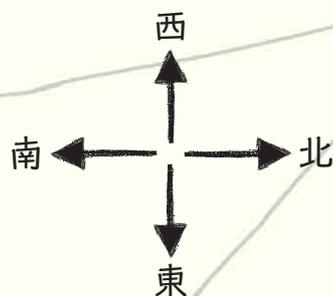


加住

山伏の縄張りを示す「霞」に由来しているといわれています。

ひよどり山 (曉町)

武田信玄・勝頼父子の一軍が、滝山城攻撃の際に陣を敷いた場所を「兵取山」と呼んでいたといわれています。それが転じてひよどりの地名となったと伝えられています。



はちおうじを物語る 地名のあれこれ

地名の由来を知ること、地域の歴史を知ることができます

石碑や橋が語る 地域の記憶

地域の記憶を語るのは、地名以外にもあります。
石碑や橋といったものにも刻まれています。

馬場横丁（千人町二丁目）

この横丁は、甲州街道の千人町二丁目付近に建つ山梨中央銀行の角から宗格院までを結ぶ横丁で、江戸時代に宗格院の北側から西側にかけて千人頭の馬場訓練場が設けられていたことから名付けられたといえます。



三条実美の歌碑（裏高尾町）

太政大臣^{さんじょうざねとみ}三条実美が高尾山薬王院に納めた歌「御巡幸の供養にて甲斐路にてよめる 来てみればこかひはた織いともなし 甲斐のたび路の野のやまのべ 実美」と刻まれた歌碑です。八王子が養蚕や製糸、機織業で栄えている様子を詠っています。



石碑



今熊山大権現道標（上川町）

小峰峠の麓に「呼ばわり山」として信仰を集めた今熊山へ向かう道を示す道標があります。また道標の付近には、昭和10年(1935年)から平成8年(1996年)まで、今熊神社の鳥居が建っていました。



先賢彰徳碑（裏高尾町）

小仏関跡の敷地内に「先賢彰徳碑」と刻まれた石碑があります。この碑は、幕末から明治にかけて活躍した国学者^{せんけんしょうとくひ}落合直亮・直澄兄弟と川村正平の功績をたたえ、昭和5年(1930年)に建立されました。

紙谷橋 (西寺方町)

江戸時代、多摩郡由井領寺方村に「紙屋(谷)」という小名がありました。中世には大幡紙という紙がこの付近で生産され、近世には乙津村(現あきる野市)に製法が伝播し、乙津村のほか、その周辺集落では軍道紙として昭和40年(1965年)代まで生産されていました。養蚕や、製茶のほか、杉樽の目地に使用されました。



水無瀬橋 (日吉町一横川町)

陣馬街道と南浅川が交わる一帯は砂礫層の下を水が流れていたことから、江戸時代には「水無川」と呼ばれていました。この名が橋名の由来となりました。



橋



嫁入橋 (鍵水)

嫁入橋は「嫁入谷戸」という谷戸名からきています。地域に残る伝説によると、昔、ミコノサワ(沢)には巫女がいました。あるとき、近くの谷戸から村人が踊っていた巫女をめがけ弓を射ました。射られた巫女はなんと狐だったといわれます。この伝説が基で「弓射谷戸」と呼ばれるようになり、それが訛って「嫁入谷戸」になったといわれています。



白旗橋 (小比企町)

湯殿川に架かる白旗橋は、昭和27年(1952年)に架橋されました。この橋には、鎌倉幕府の初代将軍、源頼朝が源氏の白旗を掲げて大軍を渡したとの伝説が残っています。近隣には、白旗という地名や白旗神を祀る白旗社があります。

主な構成文化財

①八王子神社



日本遺産 (元八王子町三丁目)

八王子という現在の市名の起源は、城山(深沢山)にある八王子神社に由来しているといわれています。

②子安神社



(明神町四丁目)

子安町の名称の由来となっているのは、八王子市域で最古の草創年代を伝えている子安神社です。天平宝字3年(759年)に淳仁天皇の妃である粟田諸姉の安産祈願のため、子安明神が祀られたことが起原とされています。

③廿里古戦場



市旧 (廿里町)

鎌倉から20里の距離にあったことから十十里と名付けられたとの説がありますが、定かではありません。永禄12年(1569年)に、武田信玄が滝山城に居城する北条氏照を攻める際に合戦が起こった場所でもあります。

④困民党之碑



(中野山王二丁目)

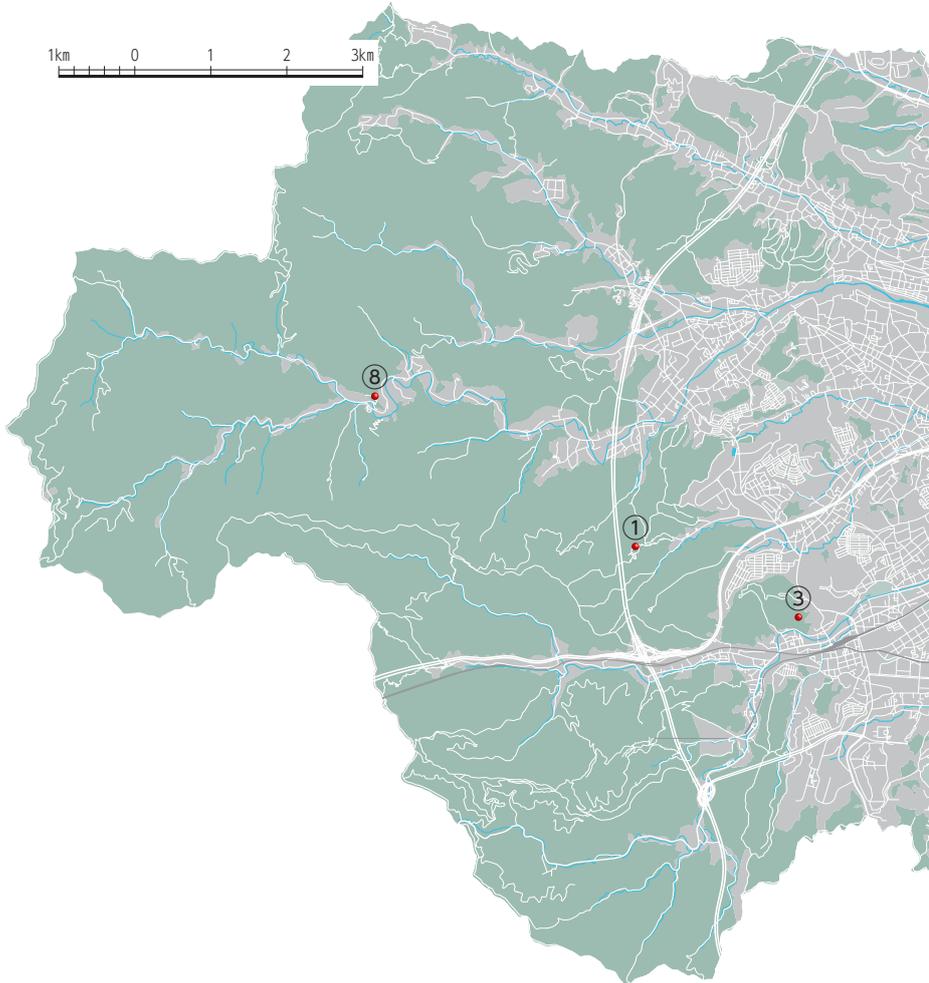
明治14年(1881年)の松方財政により貨幣価値が向上すると、負債利子や元金が急激に膨れ上がったため、養蚕・製糸を営む農民が中心となって困民党を結成し、利子の減免や年賦償却などを要求する運動を展開しました。

⑤善太郎坂碑



(丹木町三丁目)

丹木町三丁目から谷野町に向かう坂を「善太郎坂」といいます。昭和45年(1970年)ごろまで、坂下に洋画家の小島善太郎が住んでいたことに由来します。小島は「多摩梅咲く里 八王子」「八王子丹木の冬庭」「滝山城址より多摩川を望む」など、八王子の風景画を描き残しています。





⑥横川榎子先生像



〔明神町四丁目〕

東京都立南多摩中等教育学校の前身、八王子女子学校の創始者である横川榎子の像で、昭和10年(1935年)に建てられました。榎子は多摩郡横川村(現横川町)の名主の家に生まれ、多摩の幼児教育、女子教育発展に大きく尽力しました。

⑦八王子千人同心屋敷跡記念碑



〔追分町〕

八王子市の甲州街道沿いに「千人町」という町があります。これは江戸時代に八王子千人同心の屋敷地だったことから町名になりました。この碑は、昭和35年(1960年)に建てられました。

⑧夕焼小焼の碑



〔上恩方町〕

宮尾神社には、「夕焼小焼」を作詞した中村雨紅の歌碑があります。郷愁を誘う名曲を生み出した中村雨紅は、宮尾神社の宮司の三男として生まれました。歌碑は、中村雨紅の還暦を祝して昭和31年(1956年)に建てられたものです。

⑨牛魂碑



〔下柚木〕

由木村は、多摩地区で初めて酪農が導入された地です。以後、「牛の村」や「酪農の先駆村」として知られるようになりました。「牛魂碑」は、由木村搾乳者一同によって永林寺境内に昭和25年(1950年)に建てられました。

⑩あゆ塚



〔日吉町〕

浅川で採れた鮎を江戸幕府に献上していたことを伝えるとともに、鮎の霊を慰めるため、日吉八王子神社の境内に昭和32年(1957年)に建てられました。

⑪東京府立第二商業学校の碑



〔上野町〕

大正9年(1920年)に上野町に開校し、その後東京都立第二商業高等学校と改称し、台町へ移転しました。東京都立八王子工業高等学校と統合して東京都立八王子桑志高等学校となって現在に至ります。碑は、開校時に校舎があった場所に建てられています。

文化財の保存・活用事例

郷土の歴史を再発見するきっかけづくり

八王子市では、市民の誰もが楽しみながら健康づくりができるようにと、ウォーキングマップ「ハッチー・ウォーク」を作成しています。このマップには、「八王子景観100選」や「八王子八十八景」などを取り入れており、市内の歴史や自然・景観・文化・彫刻を感じながら歩けるコースとなっています。四季折々の八王子を楽しみながら、その場所に刻まれた歴史に思いを巡らせ、地域の魅力を再発見することができます。



市民に親しまれている道路が物語る歴史

通勤・通学・買い物や散歩にと、毎日何気なく使っている道路。道路の名称にも、文化財や歴史的な由来のある地名・坂・橋などにちなんだものがあり、地域の歴史を知ることができます。

本市が作成した「八王子道路愛称マップ」には、梶田遺跡公園通り、御所水通り、松姫通りなど、地域の記憶が刻まれた愛称が付けられた道路が載っています。



橋本義夫の記念碑建立活動

万葉公園には、名前の由来となった石碑が建っています。碑の正面には、「赤駒を 山野に放し 捕りかにて 多摩の横山 かしゆかやらむ」。そして碑の裏面には、「この碑は七五五年武蔵野の片ほとりに住める主婦の作なり。万葉集に収めらる。この小碑は作者と同郷なる多くの人々の手によって多摩の横山にたつ。一九五四年四月東京多摩有志」とあります。

碑には「東京多摩有志」とありますが、八王子の郷土史家である橋本義夫が立案し、実現させたものといえます。八王子とその周辺地域には、橋本義夫の建碑運動によって建てられた石碑が数多くあります。

